

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：11101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25780462

研究課題名(和文) 熟練社会教育職員のライフコースと力量形成に関する研究

研究課題名(英文) A Study of the Life-story and Empowerment of Social Education Staffs

研究代表者

松本 大 (MATSUMOTO, Dai)

弘前大学・教育学部・講師

研究者番号：50550175

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、社会教育職員のライフストーリーにもとづき、社会教育職員の力量形成の過程を分析した。その結果、まず、職員のアイデンティティや力量形成を日常的な実践における弁証法的な過程としてとらえることの重要性を提起した。次に、社会教育職員の力量とは、コミュニティに「横」のつながりをつくるだけでなく、「縦」のコミュニティをもつときに構築されるものであることを明らかにした。最後に、こうした社会教育の研究方法にとって、「学習」や「実践」の定義が重要であることを指摘した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to explain the empowerment and life story of social education staffs. First, I present the importance of the understanding of identity and empowerment as everyday practice which is dialectical process. Secondly, it is shown that social education staffs empowerment process is based on not only "horizontally community", but also "vertically community". Finally, I argue that we need further study about the conceptualization of "learning" and "practice" for research methods of social education.

研究分野：教育学

キーワード：社会教育職員 ライフストーリー 力量形成 専門性 成人教育 成人学習

1. 研究開始当初の背景

自治体の財政削減、指定管理者制度、社会教育行政の首長部局移管など、近年社会教育職員は雇用や労働環境の大きな変動に直面している。こうした変動が投げかけているのは、社会教育職員の存在意義そのものにたいする問いである。社会教育職員の専門性とは何か、どのような社会的意味があるのか、自治体にとって必要なか不要なのか厳しく問われている。つまり社会教育職員の専門性をいかに規定し、具体的にいかに高めていくのかということが社会教育にとって大きな研究課題となっている。しかし社会教育職員に関する現在の研究については以下の課題が残されている。

第一に、近年の社会教育職員研究は省察的実践論を中心にすえながら職員の養成や力量形成の方法的問題へと焦点化している。代表的なものは日本社会教育学会の研究プロジェクト(2009年)や三輪建二らの一連の理論的・実践的研究である。しかしそれは「いまここ」の研修や養成課程のあり方について手厚く検討している一方で、そうした現在の研修を経ずに長年の経験の積み重ねのなかで「すぐれた社会教育職員」となった実際の熟練社会教育職員の力量形成の過程を描くことができないでいる。つまり先行研究は、職員個人の力量を、個人時間、社会時間、歴史時間といった長期的かつ重層的な時間的展望のもとで検討してきたとは言えない。職員の力量について、「いまここ」ではなく、社会教育職員としての入職前経験も含めたライフコース全体の経験のなかで分析することが求められる。

第二に、学校の教師のライフコースに関する研究は山崎準二らを中心に多くの蓄積があるものの(山崎 2002 など)社会教育職員のライフコースに関する研究はほとんど進められていない。つまり社会教育研究に空白が存在している。例えば社会教育主事は行政の他の部署から異動したり、あるいは学校の教師が自治体の教育事務所に派遣されて職につくなど、多様なキャリアパスを辿ることが多いと知られている。しかしそうした個別のキャリアパスが社会教育職員の専門性や力量形成に実際にどのような影響をもつのか、ほとんど分析されていない。ライフコース・アプローチに基づいて社会教育職員を研究することによって、社会教育研究の空白を埋めるだけでなく、職員の力量形成の過程を総合的に把握するための道を切り拓くことができるといえる。

第三に、職場内の学習と力量形成については、教育学や経営学を中心に、構成主義的な学習論を基盤とするワークプレイスラーニング研究が進展している。しかし、そこには次のような課題が存在している。1 つめは、個人の歴史的な時間軸の分析の不在である。「いまここ」の職場内の相互作用に焦点が

あてられる一方で、入職前の個人の経験や個人をとりまく時代的・社会的背景が力量形成分析の前面に出ることは少ない。なかにはベナーのように個人の熟達を初心者からベテランへの階梯として中長期的な時間軸のなかで把握する研究もあるが(ベナー 2005)、それも現在の職場に限定されたものでしかない。2 つめは、組織の歴史的な時間軸の検討が不十分である。社会教育労働において、職場という実践コミュニティは、個人の異動、制度・政策の変容、ディシプリンの変容などの影響を受ける。つまり実践コミュニティを固定的なものではなく、時間軸に沿って変動するものとして分析することが重要である。3 つめは、先行研究では、職場外の実践コミュニティが分析の軸に十分に組み込まれていない。結婚・出産等による家族内での地位の変化、ワークライフバランスをめぐる葛藤や困難など、職員の労働や力量形成については、職場外の実践コミュニティの存在も大きな意味をもっている。これらに対し本研究は、ライフコース・アプローチによって時間的・重層的に職員の力量形成を把握したい。

以上、本研究はこのような研究的背景のもとで、熟練社会教育職員のライフコースと力量形成を分析しようとしたものでもある。

2. 研究の目的

本研究は、熟練社会教育職員のライフコースをとおして次のことを明らかにするものである。

熟練社会教育職員が経験の積み重ねのなかで時間的・重層的に構築してきた「社会教育職員の専門性」とは何か。熟練職員は専門性をいかに意味づけ価値づけているのか。専門性や「力量」を本質主義的・規範的に把握するのではなく、熟練社会教育職員の意味付与の構造から質的にアプローチする。

熟練社会教育職員が力量を形成してきた中長期的な学習の過程と構造はいかなるものか。状況的学習論に依拠しながら、職場内外の実践コミュニティの変動のなかで個人が専門性をいかに学び獲得しているのか、その過程と構造をライフコースのなかで把握する。

熟練社会教育職員のキャリアパスの構造はどのようなものであり、それは個人の力量形成にいかなる影響をもつのか。

3. 研究の方法

本研究では、状況的学習論に依拠することで、職員の学習と力量形成を、職場や地域社会といった複数の実践コミュニティ間の相互作用のなかにとらえている。熟練社会教育職員がもつ独自の専門性や力量とは、こうした複数の実践コミュニティをめぐる越境的な相互作用を、ライフコースの移行をとおして長年にわたり経験するなかで構築される

ものとして把握される。このような時間的・重層的な成長の過程を明らかにするためには、ライフストーリー・インタビューにより、ライフコースを濃く記述していくことが有効である。それゆえ本研究は、調査方法としてライフストーリー・インタビューを行うことで、時間的・重層的に構築された熟練社会教育職員の専門性、その形成にいたる学習の過程、さらには熟練に至るまでのライフコース移行の構造を分析する。

同時に、インタビュー調査をめぐる方法的基盤を確かなものとするために、社会教育研究の研究方法論に関する理論的検討も合わせて行う。

4. 研究成果

社会教育主事としての労働経験をもつ個人へのライフストーリー調査をとおして、社会教育職員の力量形成に関し、おおよそ次のことを明らかにした。

職員のアイデンティティや力量形成を日常の実践における弁証法的な過程としてとらえることを提起した。

従来の研究は、社会教育職員の身分や専門性の保障が重要な課題となっているという時代的背景のもとで、社会教育の専門職としての制度的基盤や、力量を形成するための研修や養成のあり方について手厚く検討をおこなってきた。しかしながら一方で、そうした制度のもとで労働し生活している社会教育職員個人それぞれ自身の「生」を分析した研究は十分に組み込まれてきていない。職員自身の「生」の葛藤や生きざまは、社会教育職員の力量形成研究の文脈では考察されてきていないのであった。

このような社会教育職員の「生」ととらえるということは、社会教育職員を、地域住民や職場との関係はもちろんのこと、他地域との相違、自らの理想との齟齬や挫折など、多元的な関係のなかでゆらぎ、戸惑い、ときに抵抗し、主体を形成していく存在として描くことである。つまり社会教育職員のアイデンティティとは、本質主義的にではなく、ローカルで日常的な実践のなかで弁証法的に構成される。

この意味でいえば、このアイデンティティ形成の過程を、単に「社会教育職員としてのアイデンティティ形成」とあらわすのは適切ではない。「社会教育職員としてのアイデンティティ形成」という表現は、実践コミュニティにおいて所与の「社会教育職員らしさ」を前提としており、その所与の「社会教育職員らしさ」を獲得していくことを意味している。しかしながら、実践コミュニティにおいて正統化されている意味や価値と、自らの意味や価値は必ずしも一致しない。そこには葛藤があり、矛盾がある。

そこで本研究では、社会教育職員の力量形

成でとらえるべきは、単に「社会教育職員としてのアイデンティティ形成」というよりも、実践コミュニティのなかで揺らぎながら「自分らしい社会教育職員」になること、「自分らしい社会教育の専門性」を形成することであるととらえた。日常の労働のなかで構成される矛盾に向き合い、何とかやりくりをしていく弁証法的な過程のなかの主体として社会教育職員を描くことの重要性を指摘した。

社会教育職員にとってのコミュニティの意味の内実を提起した。

一般的に社会教育では、「職員は地域住民に育てられる」という言説が流布し強調されている。これに対し本研究は、社会教育職員にとってのコミュニティとは何か、という問いを提起している。

ライフストーリー調査において、地域コミュニティのメンバーと信頼関係を結び、そのコミュニティに正統的に参加していたにもかかわらず、結果的に「挫折」を経験したという語りがあった。つまりこのことは、社会教育職員が生きる実践コミュニティとは、「学習者と職員とが信頼で結ばれたコミュニティ」ということだけではないということを示している。

分析の結果、社会教育職員の職務とは、単に地域社会に「横軸」の関係による共助のコミュニティを形成するというのではないということを示した。社会教育職員にとっては、実践コミュニティの「未来」をどのように感じることができるのか、過去と現在、未来をどのように結びつけることができるのか、「縦軸」の関係においても実践コミュニティを形成することが重要なのである。調査によれば、ここでいう、未来に結びつく「縦軸」とは、制度設計の次元を含めて、自らをとりまくコミュニティの未来を自らのこととして問い直していくことである。

以上、社会教育職員の力量とは、単にコミュニティに「横」のつながりをつくるだけではなく、自らをとりまく制度や社会的状況という「縦」のコミュニティをも自らのこととして考え問い直していくときに、より深く構築されるものであることを指摘した。

社会教育研究の研究方法論の課題を整理した。

本研究においてライフストーリー調査を行うにあたり、質的研究方法論を中心として、社会教育研究の研究方法論の課題を整理した。その結果、社会教育研究における研究方法論の言説と実際の調査方法とに齟齬があることを明らかにした。

この齟齬を解消する手段として、「学習」や「実践」に関する概念化の作業が重要となることを提起した。この知見は、本研究において、職員の「生」、具体的にはローカルで日常的な労働の過程を、「力量」あるいは「力量形成」として把握するという観点へと結び

ついている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

松本大「社会教育職員として生きる ある社会教育主事のライフストーリー」『弘前大学教育学部紀要』査読無、第 115 号、2016、pp.135-144。

松本大「『学び』の質的研究を問い直す」『社会教育学研究』(日本社会教育学会) 査読無、第 50 巻第 1 号、2014、pp.70-71。

〔学会発表〕(計 5 件)

松本大「日本における社会教育職員の生き方 社会的排除に抵抗した職員のライフストーリー」日本社会教育学会プロジェクト研究第 10 回研究会、2015 年 3 月 5 日、神戸大学。

松本大「日本における社会教育職員の生き方 社会的排除に抵抗した職員のライフストーリー」第 6 回ライフヒストリー研究日仏国際シンポジウム、2014 年 12 月 4 日、リール第 3 大学。

松本大「社会教育職員のライフコースと力量形成」日本社会教育学会第 61 回研究大会、2014 年 9 月 27 日、福井大学。

松本大「『支援』における成人教育 / 『支援』からの成人教育」日本社会教育学会第 60 回研究大会、2013 年 9 月 28 日、東京学芸大学。

松本大「『学び』の質的研究を問い直す」2013 年度日本社会教育学会六月集会、2013 年 6 月 9 日、筑波大学。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 大 (MATSUMOTO, Dai)

弘前大学・教育学部・講師

研究者番号：50550175